

2024年度(令和6年度)

事業計画書

自 2024年4月1日

至 2025年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2024年度(令和6年度)事業方針]

今年度は、「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針として策定した各委員会の中期事業計画の最終年度を迎えるが、計画した諸施策において具体的な活動と確実な前進を継続し多くの目標を達成していきたい。特に財務基盤の再建を改めて最重要課題と位置づけ、今後3年間の黒字経営を実現し結果、累積赤字を一掃し、健全な財務状況の下で普及と強化の更なる充実を目指したい。パリ2024オリンピック・パラリンピック（パリ大会）では、メダル獲得を最終目標に万全な準備で臨むこととする。そして、ロサンゼルス2028大会（ロス大会）へ向けて新たな強化体制の整備を図りたい。また、戸田から「海の森水上競技場」に移転するナショナルトレーニングセンターの有効活用に努めると共に「海の森総合型地域スポーツクラブ」との連携を確立し、海の森を中心とする地域がTOKYO2020のレガシーとして、地域住民のスポーツの大きな拠点の一つになるべく貢献していきたい。バーチャルインドアローイング大会については二回の大会を振り返ると共に正式な競技会へのステップアップを模索しつつ、継続開催を図る。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイング人口の増大を図る仕組みの構築を継続する。また「パラローイング」に加え、ロス大会から正式種目に採用された「コースタルローイング」についても強化を含めた振興のために都道府県協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携をさらに強め、各地域における普及活動の支援に努める。

2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

今年度は、パリ大会でのメダル獲得を最優先目標とする。加えてロス大会を見据え将来に向けたオープン種目およびスweep種目の強化を更に推進する。また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、タレント発掘育成事業の更なる充実と8年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業を継続すると共に、前年度に続き日本スポーツ振興センターの指導のもと、アスリート育成パスウェイ「ローイング版FTEM」の構築に取り組む。

3.「ローイングの全日本選手権大会およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、5月の全日本社会人をはじめとして11大会を本会主催大会として開催する。内2大会を「海の森水上競技場」で開催する予定だが、同会場による大会開催ノウハウの蓄積を継続すると共に、「する人」、「みる人」、「支える人」にとってより魅力ある大会となるように東京都や指定管理者と緊密に連携しローイングのファンを増やしていきたい。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

今年度も公平な派遣選手選考を行い、パリ大会、シニア・U19・U23世界選手権を中心にワールドカップやワールドユニバーシティゲームスなど各世代の主要な国際大会に選手団を派遣する。

5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

競漕規則については、国際ローイング連盟の改定に合わせ必要に応じて見直しを実施する。また、コースの新規・更新認定業務を都道府県協会や地元自治体などと協力して引き続き実施する。

6.「その他の重要な事業」

本会の喫緊の課題である財政基盤の立て直しを遂行する為、予算管理の徹底と新たな収入源の確保及び既存収入源に関する根本的見直しと改善を行う。また、スポーツ団体ガバナンスコードについても実情の的確な把握と改善に取り組み、ガバナンス強化を更に推進する。

[2024年度(令和6年度)事業計画]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

① 競漕大会開催について

- ・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月25日(土)～26日(日)	第74回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月20日(木)～23日(日)	第102回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
7月6日(土)～7日(日)	第15回全日本マスターズレガッタ	宮城県登米市 アイエス総合ボートランド
7月27日(土)～28日(日)	第44回全日本中学選手権競漕大会	岐阜県川辺町 川辺漕艇場
8月9日(金)～12日(月)	第72回全日本高等学校選手権競漕大会	長崎県諫早市 本明川水上競技場
9月4日(水)～8日(日)	第51回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月7日(土)～8日(日)	第64回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月14日(土)～17日(火)	第78回国民スポーツ大会ローイング競技	佐賀県佐賀市 富士しゃくなげ湖水上競技場
10月18日(金)～20日(日)	第65回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月27日(日)	TOKYO2020 開催記念レガッタ2024	東京都江東区 海の森水上競技場
2025年 3月21日(金)～23日(日)	第36回全国高等学校選抜大会 JOCジュニアオリンピックカップ	静岡県浜松市 天竜ボート場
未定	第3回バーチャルインドアローイング大会	未定

※全日本選手権大会は軽量級種目を含めて開催する。

② インドアローイングについて

- ・昨年度再開したA大会(全国9ブロック)およびB大会を開催する
- ・2023年度大会の成績優秀者をアジアインドア選手権大会に派遣する。
- ・インドア大会の開催方法について検討する。

③ 競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2024年度の競技団体および競技者の資格決定を行う。
- ・2024年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施する。

- ・2024年度認定期間満了を迎えるコース

都道府県	コース名	級	レーン	距離 (m)
青森県	新田名部川ボートコース	C	3	1,000
岩手県	錦秋湖漕艇場	C	4	1,000
秋田県	大潟漕艇場	B	4	1,000
福島県	福島県菅荻野漕艇場	B	6	1,000
神奈川県	相模湖漕艇場	B	6	2,000
山梨県	河口湖ボートコース	B	6	1,000
三重県	奥伊勢湖漕艇場	B	4	1,000
岐阜県	川辺漕艇場	B	6	1,000
岐阜県	長良川国際ボートコース	A	10	2,000
和歌山県	美山漕艇場	C	4	1,000
岡山県	百間川漕艇場	B	6	1,000
鹿児島県	輝北ダムボートコース	B	5	1,000

・2024年度新規認定見込み水域

群馬県、城沼 ※2029年度国民スポーツ大会開催予定地

長崎県、本明川 ※2024年度高校総体開催予定地

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第78回国民スポーツ大会、第72回全国高等学校選手権及び第36回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第102回全日本選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」(※普及委員会主管)を開催する。

②海の森総合型地域スポーツクラブとも連携し施設整備および運用システム構築を関係先と連携し確立する。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行う。

・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行う。

②審判員養成事業

・国体及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図る。

・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	5月	埼玉県・戸田

第93回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田
高体連主催研修	未定	オンライン併用

(6) 国際大会に関する事業

第20回アジア競技大会の準備を組織委員会と連携して実施する。

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

2024年シーズンは、パリ2024オリンピック大会（以下、「パリ大会」）及び世界ローイング選手権（以下、「世界選手権」）におけるメダル獲得及び上位進出という目標を目指す重要なシーズンとなる。東京2020大会以降に推進してきた強化戦略プランを具現化し、パリ大会および世界選手権において目標を達成すると同時に、次世代のオリンピック日本代表選手を育成するシーズンでもある。また、本年も幅広い選手の育成とアジア選手権等国際大会への積極的な派遣と各大会で決勝進出を果たすべく、その取り組みと支援体制を継続する。

②具体的活動計画

1) ナショナルチーム及び所属団体における共通の強化メソッド実施（共有と浸透）

- ・合宿入りの前に所属とミーティングを行い、トレーニングの内容を確認するなどナショナルチームと所属団体間における、トレーニング方法（強化メソッド）の共有化を図る。
- ・サポートコーチ制度を継続することによって、ナショナルチームと所属団体のコーチ間におけるトレーニング方法の共有化を図る。

2) 代表チームの識別

- ・ナショナルチームのA代表、B代表およびC代表の識別化を図り、A代表はパリ大会及び世界選手権へ向けた強化を、B・C代表においてはアジアカップやアジア選手権など次世代アスリートの育成を目的とした強化を行う。

3) オープン、スウィープ種目強化事業

- ・昨年アジア競技大会でのメダル獲得をステップとしてナショナルチーム育成のためオープン種目の更なる強化を図る。
- ・オープン種目における世界へのチャレンジ機会を増やし、B・C代表を国際大会へ積極的に派遣する。

4) サポートコーチ制度の拡充

- ・所属団体からのサポートコーチを積極的に受け入れ、代表チーム及び所属チームにおける継続指導を実現する。
- ・次世代指導者育成という観点でも、サポートコーチ経験者の中から次世代のナショナル

ルチームコーチを育成していくことも視野に入れる。

5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック

- ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属団体との連携を強化する。

6) 協会内組織連携

- ・アスリート委員会、医科学委員会、パラローイング委員会との横断的な連携により、より快適なチーム環境を構築する。

7) 継続強化

- ・タレント発掘・育成事業を継続し高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指す。
- ・U23 選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイの構築、そしてメダルポテンシャルアスリート (MPA)、そしてその予備軍であるポテンシャルアスリート (PA) 制度の運用を本格化する。

③強化合宿及び大会派遣計画について

【シニア】

事業名	実施場所	予定期間
4月国内合宿	戸田ボートコース	4月3日(水)～4月26日(金)
アジア・オセアニア 大陸予選	韓国・忠州	4月19日(金)～4月22日(月)
欧州遠征	フランス・エギュベレット	5月6日(月)～7月19日(金)
世界最終予選	スイス・ルツェルン	5月19日(日)～5月21日(火)
ワールドカップⅡ	スイス・ルツェルン	5月24日(金)～5月26日(日)
ワールドカップⅢ	ポーランド・ポズナン	6月14日(金)～6月16日(日)
パリオリンピック	フランス・パリ	7月19日(金)～8月5日(月)

【U23・FISU World University Championships (WUC)】

事業名	実施場所	予定期間
WUC	オランダ・ロッテルダム	7月4日(木)～6日(土)
U23 世界選手権	カナダ・セントキャサリンズ	8月18日(日)～25日(日)

(注) 強化合宿及び大会派遣計画については、本会の財政状況によって変更する可能性がある。

(2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

1) 海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリート (MPA) の育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を目指す。

2) 国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図る。

3) 発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行う。
- 4) 発掘モデル再構築事業
- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施する。
- 5) JOCエリートアカデミー事業の継続
- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行う。

②具体的活動計画

1) タレント発掘海外遠征計画

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
6月	フランス選手権	フランス	U21オープン・タレント
8月	U19世界選手権	カナダ・セントキャサリン	U19
3月	Sydney国際レガッタ	オーストラリア	U23・U21

2) MPA (U23・U21) 強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	戸田ボートコース	U23
5月	MPA育成合宿	戸田ボートコース	U23
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23
8月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
6月	フランス選手権	フランス	EA
6月	EA育成合宿	フランス	EA
2月	EA18期生育成合宿	調整中	EA

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手候補
2月	有望選手発掘育成事業	埼玉県・戸田	有望選手候補

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
-----	------	-----	------

4月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
5月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
6月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
7月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
8月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
10月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
11月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
12月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
1月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
2月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
3月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント

(3) 医科学に関する事業

感染症の蔓延状況に応じた安定的な医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献する。また、トレーナー部会を通じコンディショニングに関する啓発を積極的に行う。

①メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医事業務を行う。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行う。
- ・特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するために、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行う。

②感染症の蔓延状況に応じた活動

- ・大会開催に際し状況に応じた感染症対策をタイムリーに立案する。
- ・大会前後及び開催期間中における対応体制を取るとともに大会関係者に対する感染症指導及び管理業務を行う。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行う。
- ・2024年国民スポーツ大会、第7回全国高等学校選手権、第36回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献する。

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）養成事業

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方の

もとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる公認指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1、コーチ3、コーチ4養成講習会について以下の日程で講習会を開催する。

また新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンラインによる講習会も実施する。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ4養成講習会	専門科目：11月2日～5日（調整中）	調整中
公認コーチ3養成講習会	前期：9月21日～23日 後期：10月12日～14日	滋賀県/琵琶湖漕艇場
公認コーチ1養成講習会	前期座学5月5日～6日 後期座学：8月17日～18日 実技①：11月16日～17日 実技②：11月23日～24日 実技③：12月14日～15日	座学：オンライン 実技①：山形県/酒田市 実技②：島根県/松江市 実技③：群馬県/館林市
公認スタートコーチ	4月27日（土）（調整中） 10月26日（土）（調整中）他	東京都/海の森水上競技場（調整中）他
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	未定	都道府県ボート協会主催研修
	未定	高体連主催研修
	未定	オンラインとのハイブリッド

② コーチミーティングおよびコーチカンファレンス

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会と連携し、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスを開催する。

(5) アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画する。

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。

② 本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、パリ2024に向けた広報活動や講演活動に積極的に参画する。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等に実施する。

③ 次世代日本代表コーチ育成活動

- ・代表コーチを目指す人材の拡大を目標とした「ナショナルコーチ体験プログラム」を

オリンピック周期で定期的実施する。

- ・ナショナルコーチ体験プログラム参加者のスキルアップを目的とした育成プログラムを定期的実施し、ナショナルチームに人材を送り込める体制を確立する。

④ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会および全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の整備の一助とする。

② ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ローイング連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行う。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向けたアプローチを重点的に実施する。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・海の森水上競技場で10月に開催する。

④ 全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並びに行事に積極的に参加し、協議会との関係強化を図る。

⑤ オリンピアンへの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「オリンピアンとエルゴファイト」を海の森水上競技場他で開催する。

(2) 広報に関する事業

全国的なローイング機会拡大とローイング人口の拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・本会機関紙「ROWING」を6回発行する。同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図る。

② 本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。
- ・より見やすく、検索しやすく、発信しやすいとの観点から改善に向けグランドデザインを検討・刷新する。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を検討、実施する。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行う。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組む。

- ④ 情報源としての全国的サポートネットワークの作成
 - ・ブロックリポーター制度を復活する。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを適時行う。

- ① セーフティアドバイザー（SA4）制度の活性化と研修の実施
 - ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図る。
 - ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	11月	埼玉県・戸田市 & オンライン
セーフティアドバイザー研修	12月	北陸ブロック（予定）

※ 助成金の状況により変わる可能性あり。

- ② 各種ガイドラインおよび規程類の策定整備とローイング水域の環境整備
 - ・ローイング競技における環境ガイドラインを策定する。
 - ・「安全マニュアル」の改定を行う。
 - ・コースタル「安全マニュアル」の策定、改定への助言を行う。
 - ・競漕規則および細則の改定に合わせ改定する。
 - ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を企画・サポートする。

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年ロザンゼルスオリンピックを見据えた、選手選考およびJOC派遣大会への選手派遣事業を推進する。

- ① 安全対策
 - ・危険性を伴う海のスポーツとして水難事故ゼロを目指しコースタル「安全マニュアル」を策定し、以後必要に応じて改定する。
 - ・GPSキットの導入を検討する
- ② 自主財源の確保
 - ・コースタルローイング事業基盤の確立のための方策を検討し実施する。
- ③ 国際競技力向上のための人的ネットワーク構築・活用
 - ・強化委員会、国際委員会と連携し、国内選手・コーチと海外有力選手・コーチとが国際交流を図っていくための方策を検討し実施する。

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・パリパラリンピック出場と上位入賞。

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化しパリパラリンピックでの複数種目出場と入賞を目指す。

- ・ NTC 競技別強化拠点として海の森水上競技場の拠点整備、並びに既に利用の相模湖漕艇場・米子市錦海コース以外でのパラローイング拠点づくりを推進し競技の普及を図る。
- ・ J-STAR 等による選手発掘に努め、指定選手数を拡大する。
- ・ コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充する

(3) 具体的活動

①国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	神奈川県・相模湖漕艇場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	神奈川県・相模湖漕艇場	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
9月	9月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣する。

派遣期間	大会名	開催地
4月	アジア・オセアニア予選	韓国・忠州
5月	最終予選	スイス・ルツェルン
8月	パリパラリンピック	フランス・パリ

③乗艇体験会の実施

- ・ 普及活動として、神奈川県相模湖漕艇場等において乗艇体験会を実施する。

5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

- ①国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

[オリンピック、パラリンピック、同アジア予選及び World Rowing 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
パリオリンピックアジア・オセアニア大陸予選	韓国 忠州	4/19～21	千田隆夫(審判長) 中島大祐	岐阜 東京

世界シニア/U23/U19 ローイング選手権	カナダ セントキャサリンズ	8/18～25	山崎佳奈子	東京
パラリンピック・ローイング	フランス パリ	8/31～9/1	隈元幸治	神奈川
世界コースタルローイング選手権	イタリア ジェノア	9/6～8	田畑喜彦	愛知
世界マスターズレガッタ	ドイツ ブランデンブルク	9/11～15	成田泰久	東京
世界ビーチスプリントフィナール選手権	イタリア ジェノア	9/13～15	田畑喜彦	愛知

[ARF 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
未定				

②World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ローイング連盟(WR)通常総会	未定	オンライン
アジアローイング連盟(ARF)総会	未定	未定

③ 日韓交流事業

- ・韓国ジュニアクルーを関西選手権（7月6～7日、浜寺、関西ローイング連盟主催）に招待する。

④ 国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、開催に関する支援を実施する。

(2) 財政基盤強化に関する事業

①助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の目的および重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援をお願いする。

②事業収入の見直しについて

- ・各種事業収入の単価を昨年度改定したが、その他の収入に関しても引続き見直しを検討して財政基盤の強化につなげる。

③ マーケティング戦略の構築

- ・総務委員会内に設置した「マーケティング部会」を通じ本会内のマーケティング活動

を横断的に取りまとめる。

- ・JOC/NFジョイントマーケティングに参加し3年目になる今年度、更なるスポンサーと協賛金の獲得に努める。
- ・新ビジョンに基づき本会の事業価値を抜本的に見直し、マーケティング戦略の構築を目指すとともに、中期的な財務立て直し計画に貢献する。

④ 情報プラットフォームの見直し

- ・「みる人」「する人」「支える人」を一元管理しローイングの価値向上を通じて経営基盤の強化を図るため、スポーツ庁の助成を得て2025年度本格運用開始を目指して新たな情報プラットフォームを構築する。

(3) ガバナンス強化に関する事業

前回の加盟上部団体 (JSP0、JOC、JPSA) による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化を継続する。

① 公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

② コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図る。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ継続する。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に拡げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図る。

① ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行う。

② ドーピング防止啓発活動

- ・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施する。
- ・強化指定選手 (パラローイングを含む) を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・各地域大会 (朝日レガッタや国体地区予選など) においてアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・アウトリーチ活動を全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施することを計画する。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会と連携し中期事業計画の精査、軌道修正及び本会の長期的な方向性に関し戦略を提案する。

- ・スポーツ・インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)推進にむけて、本会において重要性の周知を徹底する。
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般を推進する。
 - ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図る。
- ・2026 年アジア・アジアパラ競技大会に関する諸準備を推進する。

以上